

鹿野ちゃれっじ2023 「果樹の里山プロジェクト」 次世代につなげるシビックプライド



大阪国際大学
国際教養学部 国際観光学科
久保由加里 研究室

4年 高場未湧・前穂乃実・
原井川友梨

3年 鶴岡えみり

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは
2. これまでの流れ
3. 2023年度の活動目標
4. 活動実施報告①②③④⑤
5. 活動の成果と課題
6. 2024年度の活動目標

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

鹿野町とは



- ・ JR山陰本線浜村駅から車で約15分
- ・ 鳥取市街から車で約30分



・ 緑豊かな山々に囲まれた水田畑地が広がる地域

・ 戦国時代の鹿野城主、亀井茲矩によってつくられた城下町地区では、400年の伝統ある「鹿野祭りの似合う町」テーマに、古民家が立ち並ぶ統一感ある町並みが魅力。鳥取県『県民の建物100選』に選ばれ、行政と住民によって保全されている。

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

「鹿野ちゃれっじ」とは

鹿野町の強みであるまちづくり、演劇、農業の3つを生かした、
体験と人とのめぐりあいを五感で楽しむプロジェクトとして誕生した観光交流事業。

チャレンジ(challenge)
+カレッジ(college)
の造語。



2014年 鹿野ちゃれっじを久保ゼミが検証

⇒ 2015年 **農**をクローズアップした「果樹の里山プロジェクト」に

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

「果樹の里山プロジェクト」とは

鹿野町・河内地区の耕作放棄地を「果樹の里山」へ。

「果樹の里山をデザインする」をテーマに、人々が行き交う空間づくりを目指している。



- ・世帯数:80
- ・人口 : 149
- ・高齢化率 : 約64% (2024年3月4日現在 鳥取市役所調べ)
- ・鷲峰山や河内川、法師が滝、棚田など豊かな自然に囲まれた魅力ある地域

〈地域の現状と課題〉

- ・地域の過疎化・高齢化の進行
- ・公共交通機関が減便され、日用品や食料品の購入、医療機関への通院等も不便になっている
- ・空き家の増加
- ・農地を維持管理する集落営農組織の育成が十分でない
- ・耕作できなくなる農業者が年々増加しており、耕作放棄地も増加する一方にある

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

「果樹の里山プロジェクト」とは

鹿野町・河内地区の耕作放棄地を「果樹の里山」へ。
「果樹の里山をデザインする」をテーマに、人々が行き交う
空間づくりを目指している。



河内の耕作放棄地
(2014)



果樹の苗植え
(2015)



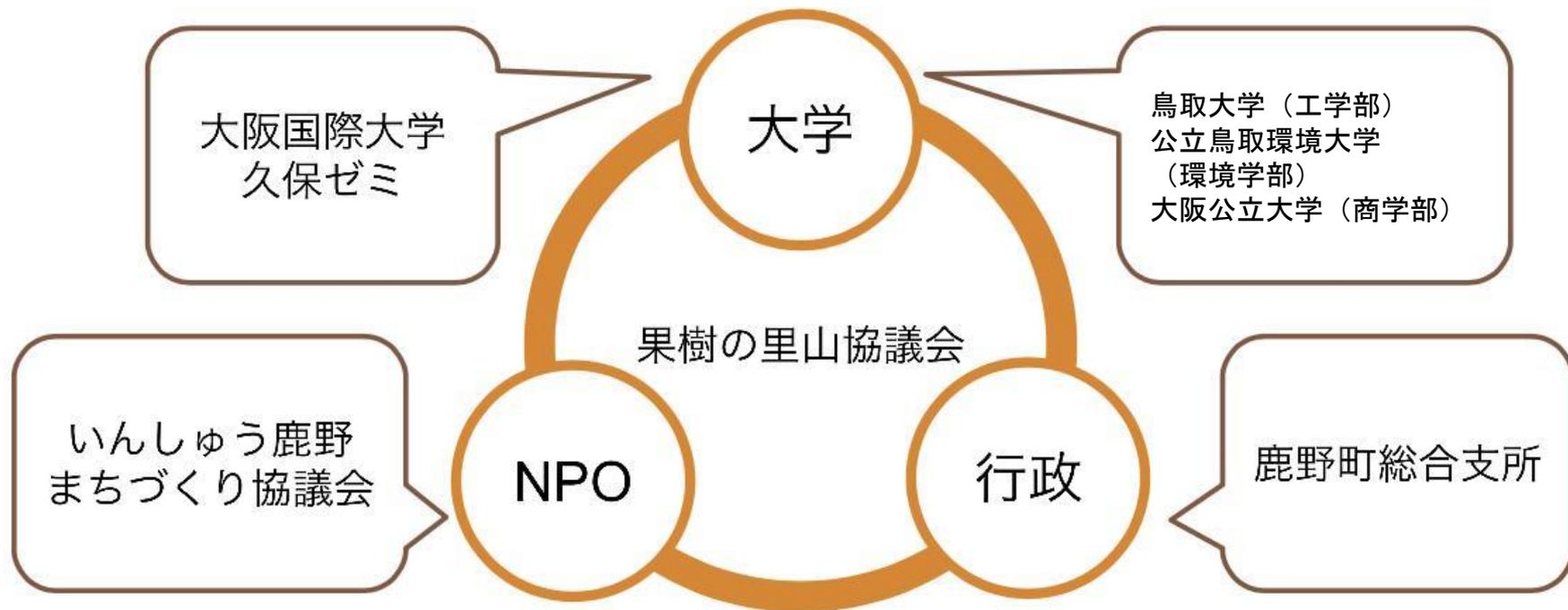
耕作放棄地を
「果樹の里山」へ
(2018)



イベント開催
(2019～)

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

「果樹の里山プロジェクト」関係メンバー



鹿野町×OIU 地域づくりまでのプロセス

①交流



来訪者と地元の人が交流し
また訪れたい空間を目指した

スタートした当時は、地元の方々と
大学生で壁があったが、
お好み焼きをふるまうことで
信頼関係を築くことから始めた

②協働



学生たちは果樹の里山メンバーから、
苗植えや道の整備のやり方を
教わりながら共に作業をした

新しいものを作り出すための
環境づくり

③共創



地域の方だけでなく
行政の方と今後の方針を
話し合い（産官学ミーティング）
活動計画を立てていった

④創造



地域イベントや大学間交流などの
新しい活動を開始した

地域の方々がイベントの運営に
中心となって参加いただける
ようになった

人々が集まり交流ができる場を創
出した

3. 2023年度の活動目標

2023年度の活動目標

1. 学内での活動を増やす
2. イベントでの集客率の向上
3. 学んだ観光学を活かす
4. 意味のあるSNSの活用

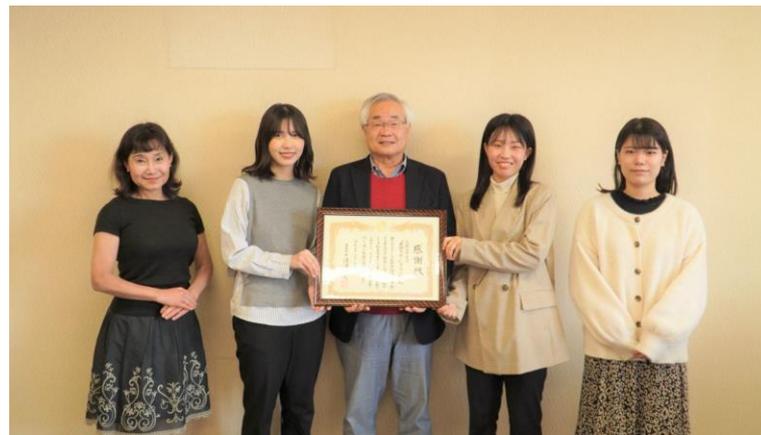
4.活動実施報告

2023年度 活動スケジュール

	活動内容
4月	対面・オンライン会議2回・宮本学長への報告会 鳥取市へ売上金寄付、感謝状の贈呈式
5月～8月	対面・オンライン会議2回・宮本学長への報告会 対面・オンライン会議3回・新入生への説明会開催 対面・オンライン会議1回・チャレンジ制度採択授与式 対面・オンライン会議1回 対面・オンライン会議2回
9月	対面・オンライン会議2回
10月	果樹の里山まつり事前準備・カンボジアでのイベント
11月	果樹の里山まつり・観光学概論
12月	果樹の里山キーホルダー販売
1月	ことらば発表会・大学間交流・空き家対策セミナー・鹿野支所へ売上金を寄付
2月	振り返りミーティング・来年度への引き継ぎ
3月	学生企画の活動報告書、総括、お試し体験ツアー

4.活動実施報告①

宮本学長への報告会



前年度の活動について鳥取市長からの感謝状を頂いたことを宮本学長へ報告を行った。
鹿野ちゃれっじのこれまでの活動についても報告し、宮本学長からお褒めの言葉や激励の言葉を頂いた。

4.活動実施報告②

カンボジア プノンペンのイオンモールで開催されたイベントでのポスター発表

Faculty of International Liberal Arts
Shikano Challenge! Project

SHIKANO CHALLENGE! 産 学 協 働
～鹿野町を五感で楽しむ体験プログラム～

"Shikano Challenge" is a tourism exchange project that was born as a project to enjoy experiences and encounters with people through the five senses, taking advantage of three of the strengths of Shikano Town: town development, theater, and agriculture. In cooperation with local people, we have been engaged in collaborative creation activities to redesign abandoned farmland in the Kouchi district of Shikano Town, Tottori City, Tottori Prefecture and turn them into safoyama landscapes with orchards ("Fruits Village").

Interaction
Build trust with local people
Our aim was to create a space where visitors and locals could interact and where visitors would want to visit again. At the beginning of this project, there was a wall between the locals and university students, so we began by actively interacting and building trust with them, for example by serving okonomiyaki.

Collaboration
Cultivate abandoned farmlands and grow crops
The students worked together with the members of the Fruits Village Council, learning how to plant seedlings and maintain roads. This was to establish an environment to create something new.

Co-creation
Using crops harvested in formerly-abandoned farmland, we created a place for people to interact and communicate. We discussed future policies with government officials as well as local residents (industry-government-academia meetings) to develop our activity plans.

Creation
We have started new activities such as local events and inter-university interactions. Local residents now play a central role in organizing events. We have created a place where people can gather and interact.

SDGs initiatives

5 **Gender Equality** Town development requires the power of women as well as men. We held a women's gathering to get to know each other. This helped encourage women to participate in the Fruits Village Project as well. Now they are actively involved in activities such as making fig jam.

8 **Decent Work and Economic Growth** By utilizing the power of tourism and creating a space for interaction, we could create a place for industrial activities (Fruits Village Festival).

11 **Sustainable Cities and Communities** Abandoned farmland was transformed into orchards, and local people can now grow fruit and sell their harvests. By taking the initiative themselves, residents will participate in the development of their own town where they can contribute to live resources: flowers and plants grown in the Kouchi district. All 33,400 yen (120,000 yen of the profits were donated to Tottori City to help preserve the biodiversity of safoyama landscapes. We received a letter of appreciation from the mayor of Tottori City.

17 **Partnerships for Sustainable Development** We also interact with other universities. In Shikano Town, together with students from different fields of expertise and local residents, we exchanged opinions on the theme of "measures for vacant houses and lots." As part of Weekend-Only Town Shops, we collaborated with other universities to organize events.

**School of Japanese Studies for Foreign Students
One Year Japanese Language Program "BEKKA"**

Application Period: Fall Admission: March 29, to May 7, 2024. BEKKA celebrated its 30th anniversary on October 14, 2023, having been established in 1993.

Contact address: ryugaku@oiu.jp
Osaka International University, International Exchange Center
6-21-57 Tohda-cho, Moriguchi, Osaka 570-0014 JAPAN

SCAN ME

Life Design Developer
AEON MALL



Osaka University Booth

As a results:

There are many customer asking and interacting about the university information's booth

カンボジアの首都であるプノンペンのイオンモールにて行われたSDGsに関するイベントで、私たちの活動紹介ポスターが掲載された。日本だけでなく、異国の人に認知していただく良い機会となった。

4.活動実施報告③

果樹の里山まつり 事前準備



イベントの事前準備として10月7,8日に鹿野町を訪問し、フットパスのルート確認、縁側カフェの視察、おやきの試作等を行った。いちじくジャム作りも地域の方と一緒にいき、青空の中ピザを頂いたりと地域の方との関係も更に深めることができた。



4.活動実施報告③

果樹の里山まつり 本番

宝さがしフットパス：河内地区のありのままの風景を歩きながら楽しみ、河内地区の地域資源＝「宝」を参加者に探し出してもらうもの。



11月3,4日に「果樹の里山まつり」を開催。宝さがしフットパスを行い、縁側カフェをした。フットパス以外に、果樹の里山で収穫したいちじくやレモンのドライフルーツを使い、キーホルダーやブローチにして「果樹の里山アクセサリー」を販売した。この売上金を河内の観光資源である法師ヶ滝の整備に寄付をした。

4.活動実施報告③

縁側カフェ

縁側カフェ：民家の庭や軒先の縁台などを開放して、料理や手作りお菓子、お茶などを提供すること



フットパスの休憩所として「縁側カフェ」を行った。空き家の縁側を使い、手作りのおやきとお茶を提供し、新たな交流空間を生み出した。

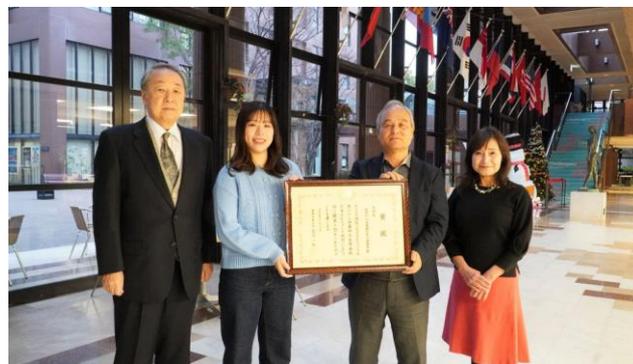
4.活動実施報告④

農林水産大臣賞 受賞



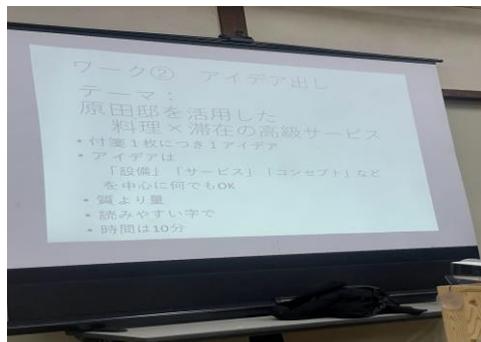
令和5年度豊かなむらづくり全国表彰において、地域外の大学生などと連携し、地域に新たな価値を創り出していることが評価され、農林水産大臣賞を受賞した。

岡山県で開催された農林水産大臣伝達式に出席した。



4.活動実施報告⑤

ことらぼ発表会・大学間交流・空き家対策セミナー



1月19,20日に鹿野へ訪問。

鳥取市鹿野町総合支所にイベントの売上金を寄付贈呈式を行った。また、ことらぼの空き家活用の発表会を聞いた。

ことらぼ・大阪国際大学・国立米子工業高等専門学校の人・大学間交流を行い、2チームに分かれて「原田邸を活用した料理×滞在の高級サービス」をテーマにグループワークをし、発表した。さらに、空き家対策セミナー「空き家のわ」に参加し、さまざまな空き家問題についての話を聞いた。

4.活動実施報告⑤

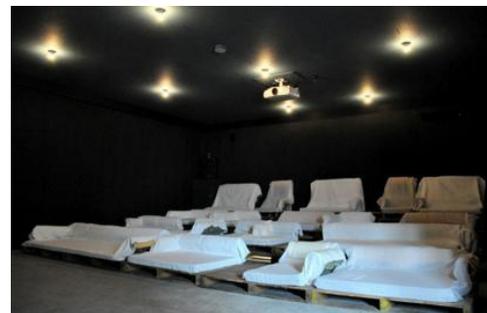
空き家研修ツアー



← 空き家を利用したドーナツ屋

改築する前の家の面影がいたるところにあり、以前の家の構造を想像するのも楽しみの1つだと感じた。家の反対のスペースは民宿となっており、宿泊することができる。

廃校を利用した手作り映画館「ジグシアター」→ 大阪から移住した夫婦が経営しており、廃校となった小学校の図工室を改装して作られている。



5. 活動の成果と課題

活動の成果

- ★ 新たな取り組みとして「縁側カフェ」を実施
⇒地域の方との関係を強化
- ★ イベントの実施、セミナーへの参加
⇒地域の方やイベントでの来訪者、活動メンバー自身のシビックプライドの向上
- ★ 新たな商品開発
⇒いちじくの魅力を発信
- ★ 他大学・社会人との交流
⇒新たな価値観を発見

5. 活動の成果と課題

2023年度の課題

1. イベントでのコンセプト力が曖昧

→妥協せずに、コンセプトに沿ったものを100%再現し、お客様に提供する。
目的を明確にし、誰に対してどのような価値を与えるのかを考える。

2. 役割の振り分けの見直し

→それぞれの得意分野をイベントで活かし、効率よく連携を取る。

3. 学内の後継者不足

→観光学概論や説明会のみならず活動範囲を増やし、認知度を上げる。
→興味関心を持ってもらえるような魅力をSNSを通じて積極的に発信する。

6. 2024年度の活動目標

2023年度の目標

1. コンセプトの明確化
2. 学内での認知力の向上
3. 集客率増加に向けた宣伝の工夫
4. SNSの有効活用

6. 2024年度の活動目標

2023年度の目標（活動計画）

学内

- ・ 観光学概論や説明会以外で鹿野ちゃれっじを知ってもらう機会を増やす
ex. 4月にある新入生歓迎会やサークル勧誘をしている期間に宣伝

集客率

- ・ フットパスでお客様に何を提供したいのかを目的を明確にする
- ・ 鹿野学園などの子供たちが多く集まる場所に広告・宣伝をする

SNS

- ・ メンバーが楽しく活動をしている写真を多くアップし、先入観を取り除ける投稿をする
- ・ 定期更新（SNSが得意な子を募集する）
- ・ 目的を明確にし、何を伝えたいのかをしっかり言語化する

交流

- ・ 来年度も他大学・社会人・地域の方々と交流を引き続き行い、新しい学びを得る機会を増やしていく
- ・ 外部の空き家やまちづくりのセミナーに参加し、知識や繋がりの輪を広げる



果樹の里山 公式SNS

Facebook



Instagram



KAJYU_YAMA

最後に、この活動にご支援をいただいた
地域協働センター並びにご支援・ご協力いただいた
全ての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。